

日本薬学会第124年会 ランチョンセミナー

日時 : 平成16年3月29日(月) 12:30~13:30

場所 : ハイアット・リージェンシー・オーサカ

クリスタル・ルビー (I会場)

座 長

鍋島 俊隆 先生

名古屋大学医学部附属病院 薬剤部長 教授

講 演

『薬学卒後の生涯学習の意義』

～だれが、なにを、どうやって～

内山 充 先生

財団法人 日本薬剤師研修センター 理事長

最近の薬剤師業務のように日々進歩し高度化する領域では、過去の知識や経験はすぐに通用しなくなる。それ故に薬剤師としての役割を果たすためには、生涯にわたる継続的な学習・研鑽により自ら資質を維持することが必要である。誰のためかといえば、薬剤師自身のためというよりは、薬剤師のケアを期待し待っている人たちのためであり、薬剤師の義務といえる。

生涯を通じての学習は、能力、経験の不足を補うというよりも、時代に即応した知識、技能を学ぶためのものである。したがって、無難に業務ができているからといって、生涯学習が不要だというわけではない。また、医療実務に携わるものだけでなく、薬に関する仕事をしている限りにおいてはすべての職域の薬剤師が、自己の専門職能の向上のために学習に努めなければならない。そして、その証拠として何らかの認定証を取ることで、世間に薬剤師の意欲を具体的に示すことができる。

認定証は、能力を示すというよりも自己資質向上の意欲を示す指標と考えたい。初任者や知識不足の者よりも、むしろ指導的立場にいる者や役職者から率先して取得することになれば、生涯学習と認定取得が職域を越えて薬剤師の共通の行動となり、社会に対する薬学のアピールにもなり、これまでとかく不足がちだった薬学関連職域間の連帯感醸成にも役立つに違いない。

免許取得後の薬剤師の認定制度につながる生涯学習の種類や方法については当日説明する。

共催

日本薬学会第124年会

高園産業株式会社